

末梢性顔面神経麻痺ラットに対する上頸神経節切除の効果

渥美 元成

論文内容の要旨

末梢性顔面神経麻痺に対する星状神経節ブロック (SGB) の有効性を検討することを目的に、ラット側頭骨内外の冷却による顔面神経麻痺モデルを作製し、上頸神経節切除後の経時的評価を麻痺の回復期間、顔面神経の組織学的観察、さらに頬粘膜血流量測定について検討し、以下の結論を得た。

- 1) 側頭骨内外冷却後の麻痺の回復期間は、骨内が 13.8 ± 1.6 日、骨外は 18.3 ± 2.2 日であった。
 - 2) 上頸神経節切除によって骨内冷却による麻痺は 2.4 ± 1.3 日短縮し、骨外冷却による麻痺は 5.4 ± 1.3 日短縮した。
 - 3) 光学および透過型電子顕微鏡による観察では、骨内外の冷却および上頸神経節切除 21 日後で、麻痺前の組織像を示した。
 - 4) 血流量測定では、上頸神経節切除後、行わないものと比較して有意に血流が増加した。
- 以上より、顔面神経麻痺に対する SGB は有効で、側頭骨外で神経損傷が生じている場合に、より有効な治療法であると考えられた。

論文審査の要旨

本研究は、末梢性顔面神経麻痺に対する SGB の有効性を検討することを目的に、ラット側頭骨内外神経損傷による顔面神経麻痺モデルを作製し、さらに上頸神経節切除によって SGB の効果を検討したものである。その結果、骨外で神経損傷が起こった場合に、SGB がより有効であることを明らかにしている。これらの知見は末梢性顔面神経麻痺の治療に有用な示唆を与えるものである。

以上は、歯学に寄与するところが大きく、博士（歯学）の学位に値するものと審査する。

主査 又賀 泉
副査 沼部 幸博
副査 佐藤 巖

最終試験の結果の要旨

渥美元成に対する最終試験は、主査 又賀 泉 教授、副査 沼部 幸博 教授、副査 佐藤 巖 教授によって、主論文を中心とする諸事項について口頭試問が行われ、優秀な成績で合格した。